

# 雄勝稲作情報

No.7 令和4年8月31日



発行 ● 駒形農業協同組合  
 湯沢主食集荷商業組合  
 湯沢市農業総合指導センター  
 東成瀬村農業総合指導センター  
 秋田県農業共済組合  
 監修 ● 雄勝地域振興局農林部農業振興普及課  
 雄勝地方病害虫防除員協議会

## 生育状況について（8月20日現在）

定点調査結果（「あきたこまち」8地点平均）

田植：本年5月23日

	穂数 (本/㎡)	葉数 (葉)	着粒数	
			粒/穂	粒/㎡
本年	429	12.9	80.5	34,394
平年	448	12.9	72.0	32,100
平年比	96%	0.0葉	112%	107%
前年	431	13.0	76.4	32,810
前年比	100%	-0.1葉	105%	105%

※雄勝地域振興局調べ

管内の出穂盛期は、生育が早めに推移したことから、平年より4日早い7月31日でしたが、地域やほ場、品種間で差が見られ、特に遅植えや中生～晩生品種でその差が広がりました。

8月19日現在の定点調査結果（あきたこまち8カ所）では、穂数は429本/㎡（平年比96%）とやや少なく、一穂着粒数は80.5粒（同比112%）と多く、㎡当たり着粒数は34,394粒（同比107%）と平年より多くなっています。

定点調査ほの標高別着粒数は、平年と比べ標高の低い地点で多くなっています（図参照）。

本年は出穂後の日照が少なく、初期登熟は緩慢に推移しているため各ほ場をよく観察し、落水時期や畦畔除草のタイミングを判断しましょう。また、計画的に作業機械や乾燥施設等の点検を実施してください。

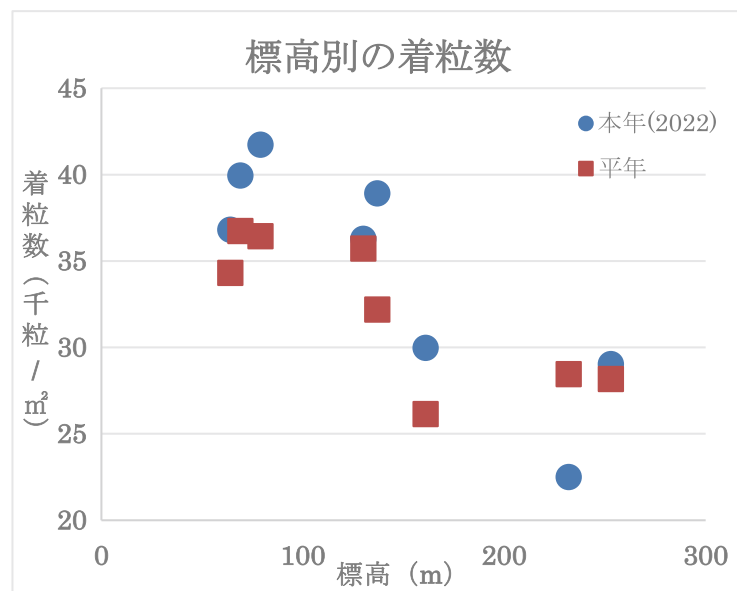


図 定点ほ場(標高別)の着粒数

## 収穫前の当面の管理について

- 登熟の向上を図る水管理**  
 落水時期は出穂後30日頃を目安とし、イネの登熟度やほ場の作業性を考慮して決めます。ただし、落水が早すぎると登熟が妨げられるので注意します。  
 落水までの期間は、土壌水分を保持しながら、稲体の活力を維持することが重要です。開花後25日間は米粒が肥大するため、土壌水分が不足しないように注意します。また、生育が旺盛な場合は、遅くまで肥大しますので、落水が早すぎないように注意してください。
- 斑点米カメムシ類の防除対策**  
 農道や畦畔の草刈りは、収穫2週間前になってから行いましょう。

### 安全確認と予防対策を十分に行い農作業事故を防ぎましょう！

9月1日から10月31日までは「秋の農作業安全確認運動」期間です。秋の農繁期は最も農作業にかかる事故が発生しやすい時期です。

「一人一人の安全意識と周囲からの「声かけ」から始まる農作業の事故防止」



- 点検整備・清掃作業では、エンジンを停止しましょう。
- 手こぎ作業は、適切な服装で機体の内側に手を入れないようにしましょう。

### 周囲の環境を汚さない 環境に優しい米作りをしましょう！

秋田県では、**稲わら焼きは原則禁止**されています。特に、周囲への影響が大きい10月1日から11月10日の間は、全面的に禁止されています。





## 刈り取り適期は籾の黄化程度も加味して総合的に！

今年はお穂後の日照が少なく、初期登熟が緩慢に推移しています。刈り取り適期は品種やほ場条件等で異なり、今年のように日照不足が続いた場合などは、青籾歩合の低下に時間を要することから、ほ場毎の登熟状況をきめ細かく観察し、適期を総合的に判断してください。一方、お穂後の積算気温が早生種で1,100℃、中晩生種で1,200℃を超えると胴割れ米が急増しますので注意が必要です。

### ○今年のお穂後積算気温による刈取適期予想（アメダス湯沢）

出穂期	積算気温到達日					積算日照時間到達日 200h
	950℃	1,000℃	1,050℃	1,100℃	1,150℃	
7月25日	9月3日	9月7日	9月9日	9月12日	9月14日	9月1日
7月28日	9月6日	9月11日	9月13日	9月16日	9月18日	9月7日
<b>7月31日</b>	<b>9月10日</b>	<b>9月14日</b>	<b>9月17日</b>	<b>9月20日</b>	<b>9月22日</b>	<b>9月15日</b>
8月1日	9月11日	9月16日	9月18日	9月21日	9月24日	9月16日
8月3日	9月13日	9月19日	9月21日	9月24日	9月27日	9月17日
8月6日	9月17日	9月22日	9月25日	9月28日	10月1日	9月21日
8月9日	9月21日	9月27日	9月30日	10月3日	10月6日	9月23日
8月12日	9月26日	10月1日	10月5日	10月8日	10月11日	9月23日
8月15日	9月30日	10月6日	10月9日	10月13日	10月17日	9月24日

\* 8月24日以降の気温データは平年値を使用。

### ▼刈り取り時期の判定の目安

<b>① 出穂後の日数による判定</b>
早生種（あきたこまち等）で出穂後45日前後 中晩生種（めんこいな・ゆめおぼこ等）で出穂後50日前後
<b>② 出穂後の積算気温による判定</b>
出穂後の日平均気温の積算値 早生種：950～1,050℃      中晩生種：1,050～1,150℃
<b>③ 籾の黄化程度による判定</b>
葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度が90%以上の頃
<b>④ 枝梗黄化程度による判断</b>
主軸の上から5番目の枝梗まで黄化した頃

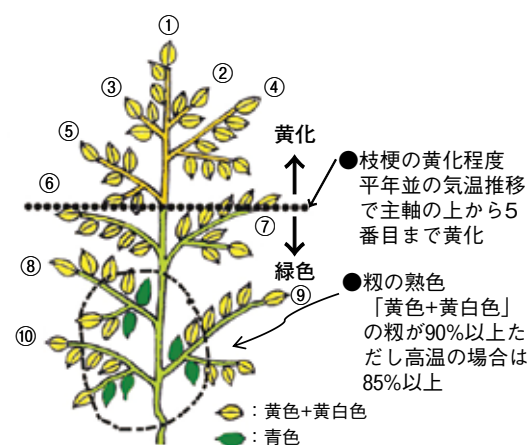
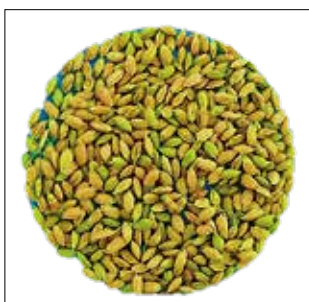


図 籾の熟色、枝梗の黄化程度による刈り取り適期の判断（模式図）

### 黄化率のイメージ写真



黄化率30%



黄化率50%



黄化率65%



黄化率80%

## 収穫作業と乾燥調製

### (1) コンバイン収穫

- ① 損失粒やワラ・穀粒の詰まりが発生しないように、稲の生育量に合わせた作業速度で行いましょう。
- ② 収穫時の籾水分は25%以下が望ましく、収穫作業は稲体が乾燥している午前10時～午後5時頃に行いましょう。

### (2) 台風等による被害対策

台風は強い風雨を伴うため、倒伏や風水害、進路によっては山脈を越えた乾いた空気が、高温の風となって吹くフェーン現象の原因となります。

特に、倒伏が発生すると受光体勢が著しく悪化し、登熟の低下による減収と穂発芽による品質低下を招くことから、倒伏した場合は次の事項を実施しましょう。

- ① 圃場の停滞水は速やかに排水しましょう。
- ② 登熟後期の場合は早めに刈り取るとともに、追い刈りや横刈り等により刈り取り精度の向上に努めましょう。
- ③ 穂発芽した場合は、品質低下防止対策で刈り分けを行いましょう。

### (3) 高品位米に仕上げるための乾燥・調製

#### ① 乾燥作業の留意点

- 乾燥機の特徴、操作手順をよく理解しましょう。
- 高水分籾の刈り取りを避け、わら屑の混入を少なくし籾の循環を良くしましょう。
- 乾燥前、中、後のそれぞれの工程で正確な水分測定を行いましょう。
- 水分が多い籾や活青米の多い籾などは、籾含水率が18～20%まで低下した時点で乾燥機を休止し、籾全体のテンパリングを行ってから仕上げ乾燥する二段乾燥を実施しましょう。
- タイマー設定時間はやや短めとし過乾燥を防止します。自動水分計のものでもやや高め的水分で一時的に停止し、温度設定する時は籾の状態を考え過乾燥にならないようにしましょう。
- 乾燥の仕上がりは、玄米水分15%とします。なお、過乾燥になると胴割粒が発生するとともに食味が低下するので注意しましょう。

#### ② 調製作業（籾摺り・選別）

##### 〔籾摺り〕

- 籾摺り作業は、穀温が高いと肌ズレ米が発生しやすくなるので、穀温が常温まで低下してから行いましょう。
- 籾摺り機の処理量は米選機の能力に合わせ、米選機の能力以上に玄米を供給しないように注意しましょう。
- ゴムロールの摩耗程度を点検し、試し摺りを行い脱稃率が80～85%になるよう調節します。全自動の場合もゴムロールの摩耗点検は必ず行いましょう。

##### 〔米選〕

- 網目は1.9mmを基本とし、整粒歩合80%以上を確保しましょう。
- 規定範囲内の流量で選別しましょう。